

## もらった馬の歯を見てはいけない

「齢」は「よわい」と読み、生まれてから重ねてきた年数、つまり「年齢」を意味します。「齢」の字の左側の部首「齒」の下は「口の中に歯が並ぶ」様を表す象形文字です。

口の中の歯は人が年齢を重ねるごとに変化します。例えば赤ちゃんの歯が初めて生えるのは生後6か月頃、初めて永久歯が生えるのは6歳頃、永久歯が生えそろうのは12歳頃、17歳～22歳頃に親知らずが生え、老齢期には次第に歯が抜け落ち、そして歯が無くなる頃に寿命がつきることから、「齢」は「年を重ねる」他に「寿命」の意味も込められています。ちなみに「よわい」の読み方は「世延（よは）い（世の中を生きながらえる）」からきているともいわれます（諸説あります）。

「馬齢を重ねる」という言葉があります。馬の歯は、年齢とともにすり減っていくので、歯を見ればその馬の年齢、つまり「馬齢」がわかるそうです。

馬の歯は硬い草を食べるときに、上下の歯をすり合わせて咀嚼（そしゃく）するので、その減り方も激しく、年齢が高くなるほど歯のすり減り具合がひどくなり、これにより馬のおおよその年齢を判別できるといわれます。「馬齢を重ねる」の意味は「これといったことをせず、いたずらに年を取ってしまった」とあくまでも自分自身を謙遜（けんそん）して使う言葉です。間違えて他の人に使わぬよう、気を付けなければなりません。

さて「馬齢を重ねる」は実は中国の歴史書の「三国志」に由来しますが、その他ヨーロッパ地域のことわざにも「もらった馬の歯を見てはいけない」という言葉があるのだそうです。馬は歯を見ればおおよその年齢がわかることから、「人から頂いた馬の歯を見て、馬の年齢を確認してはいけない」、つまり「人からご好意で頂いたものを疑ったりケチをつけてはならない」という意味のようです。

馬が身近ではない日本では、馴染みのないことわざです。日本的に置き換えてみるならば、この時期、「もらったお年玉をすぐに開けてはいけない」ということでしょうか。

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

